

## 令和3年度第2回滋賀県立病院経営協議会（概要）

日 時 令和3年10月15日（金）15：00～17：00

場 所 WEB会議（Zoom）

議 事 令和2年度決算について  
第五次県立病院中期計画について

### 出席者

#### 【経営協議会委員】

- 越智 眞一 委員（滋賀県医師会会長）
  - 金子 隆昭 委員（滋賀県病院協会会長）
  - 菊井 津多子 委員（滋賀県がん患者団体連絡協議会会長）
  - 佐藤 陽子 委員（公認会計士）
  - 鹿田 由香 委員（滋賀子育てネットワーク代表）
  - 富永 芳徳 委員（公立甲賀病院名誉院長）
  - 廣原 恵子 委員（滋賀県看護協会会長）
- （欠席委員）
- 田邊 昇 委員（弁護士、医学博士）
  - 濱中 浩孝 委員（大阪府済生会中津病院事務部長兼人事室長）

#### 【病院事業庁】

- 宮川庁長、村田理事、正木次長
- （総合病院）望月事務局次長
- （小児保健医療センター）加藤次長
- （精神医療センター）青木次長
- （経営管理課）棚橋課長、森参事

○庁長あいさつ

○委員自己紹介

○事務局自己紹介

○資料確認

## ○議長選出

## ○会長あいさつ

この2年弱、新型コロナウイルスで大変なことになり、国の対策も少し不十分であったのではないかということもあり、いろいろご批判もいただいているが、医療関係者におかれては、感染のリスクも顧みず、日夜診療を行い、ワクチン接種等にも励んでいただいていることに感謝申し上げたいと思う。

さて、本日の議題は、令和2年度の3病院の決算、それから来年度から始まる第五次中期計画の策定あるいは論点整理、あるいは新しい目標管理手法の検討等について事務局からいろいろご説明をいただき、委員の皆様方からご意見をいただきたいと思っている。また、医療の状況は非常に流動的であり、財務省等は、来年度の診療報酬の改定において、かなり厳しいことを主張するのではないかというような予測も出ている。また、第8次の医療計画、あるいは第9期の介護保険事業計画が2024年度から始まるということもあり、第4期の医療費適正化計画も24年度から始まるということになっている。こういう流動的な状況ではあるが、県立総合病院は県の中核的病院として、これからもより一層、県民や患者さんの期待に応えられる県立病院になっていただくように我々協議会としても知恵を出していきたいと思うので、委員の皆様からは忌憚のないご意見をお願いしたい。

## ○議事

説明 令和2年度決算について  
(事務局から説明)

### 質疑

- (委員) ただいま令和2年度の決算、その他についてご説明をいただいた。どこの病院とも受診控え等で大きく外来患者数、入院患者数が減っているということであるが、県立3病院では、新型コロナウイルス病床を確保していただき、対策を十分にやっていたということである。従って、説明があったように、全体としては赤字となっているが、新型コロナウイルスの補助金もあり、何とか総合病院は黒字になっているということである。県域にご尽力いただいた結果がこのような状況であると思うが、大変厳しい状況だと説明をいただいた。委員の皆様から忌憚のないご意見をいただきたいと思う。いかがか。
- (委員) やはり全国的な傾向で、患者数が大幅に減っているということが県立病院でも明らかに示されているという思いがした。その中で、この令和2年度病院事業決算の参考資料の方だが、小児保健医療センターについて、確かに赤字を出されており、患者数も大幅に減ったということだが、入院単価を見ると76,000

円となっており、前年度が61,000円である。患者数は減っているが、入院単価が大きく上がっている。もし患者数が維持できていれば、相当な診療報酬の増加になったと思う。この入院単価76,000円と上がった要因は分析されているのか。

(事務局) 小児保健医療センターについては、令和2年度は、1億6,000万円余りの希少な疾患への薬剤投与があった。そのため、患者数は減っているが、単価が上がるということになっている。いわゆるゾルゲンスマという医薬品である。

(委員) 高額な薬剤を使った症例があったことによるということか。

(事務局) そのとおりである。

(委員) 確かに入院単価は上がっているが収益そのものが上がっているということにはならないというわけである。他に質問、意見等はあるか。

(委員) 支払基金のデータでいくと、小児科領域は2割減となっている。小児保健医療センターもそれくらいの減となっており、妥当な線ではないかと思う。月単位でいくと、昨年、一昨年との比較を支払基金が出しているが、今年の7月、8月において市立長浜は、大体一昨年度と同じくらいまで回復をしているというような状況になっている。そのため、ここに出てきている決算は、令和2年度の決算という一番落ち込んでいる状態であると考えてよいのではないかと思う。一方で、補助金が出ている県立総合病院に今年の決算で影響が出てくると思われる。

(委員) 令和元年度と比べると、令和2年度は全国的にも随分減少しており、今年は少し回復傾向にあるということで、3病院ともそういった傾向を反映しているというように考えることが妥当ではないかということであった。他に何かご意見はあるか。

(委員) 新型コロナウイルスにより、収益が落ちるのは仕方がないと感じている。質問だが、参考資料に他の黒字病院と比較しているところがあり、小児保健医療センターの公立類似病院について、黒字病院の職員給与費率が108.2%となっており、収入以上に人件費がかかっているにもかかわらず、最終の着地は黒字となっている。どうして黒字化されているかということを知りたい。精神医療センターも同様である。一般会計や補助金によるものなのか。

(委員) 小児と精神に関して、医業収益に対する人件費率が黒字病院の平均の方が高いにも関わらず、赤字になっているのはなぜかという質問でよいか。

(委員) そのとおりである。

(事務局) 現在、手元に基となる資料がないため、はっきりとは申し上げられないが、小児保健医療センターや精神医療センターの類似病院については、実際に黒字となった病院が少ないため、分析には至っていないというところである。

(委員) 一般会計等、病院の本来の収益以外のところから援助が多く黒字化されている

ものなのかと思う。単純に一般会計の方も対前年比少なくなっているのに、黒字に転じることができないということだと思う。そういった補助等がない場合には決算の状況はどういったことになるのか知りたいと思った。今年に関しては、新型コロナウイルスがあり赤字になったと思うので、決算自体は特に問題はないのではないかと思う。次期以降の中期計画には、特殊な事情を考慮して説明ができるような資料を作られてはどうかと思う。

- (委員) 委員がおっしゃるように、一般会計繰入金が多い少ないということもあるかと思う。小児に関しては、医業収支比率が黒字病院の方が77.1%と高くなっている。単価が高いこともあるかもしれないし、一般会計からの繰入金が多いのかもしれない。滋賀県はもう少し頑張っていただいて、繰入金を出していただくように、という叱咤激励のお言葉だったと思う。事務局には頑張っていただきたい。他の委員いかがか。
- (委員) 委員がおっしゃったところだが、黒字病院は1病院のため、比較は難しいのだろうと思った。参考資料の中で病院事業合計のところに一般会計負担金の状況というところがある。看護協会の立場から、内訳にある特殊看護体制経費とはどういうものなのか教えていただきたい。
- (事務局) 特殊看護体制経費は、小児保健医療センターおよび精神医療センターにおいて、通常の診療報酬の配置よりも手厚い看護師の配置をしていることに対する繰入金である。
- (委員) 他の委員何かご意見はあるか。
- (委員) 病院では経営をよくするために検査項目を増やす等患者の負担になるようなことがある印象を受けることがある。公立病院は、そういった余計な検査はされず、県から補填をされるので安心だという話が出る。そういったところから医療と経営はとても難しいと思った。
- (委員) 他の委員いかがか。
- (委員) 特に質問はないが、コロナ禍で特殊な状況であったということを感じながら、拝見させていただいた。
- (委員) 委員の皆さんからは、概ね3病院ともにコロナ禍にもかかわらず、令和2年度の事業を頑張っていたいただいたということで評価をいただいたということである。

説明 第五次県立病院中期計画について

- ・第五次中期計画の策定について
  - ・次期中期計画策定に向けた論点整理について
- (事務局から説明)

質疑

- ( 委 員 ) 事務局から次期中期計画の策定に向けた論点整理ということで、病床利用率や現状の問題対策、そして将来どうしていくか、小児保健医療センターの再整備事業、あるいは経営形態のあり方等について、詳しく説明いただいた。それでは、ご意見をいただきたい。
- ( 委 員 ) 特に経営の方針だが、やはり今回、新型コロナウイルス感染症に対する県立病院の反応がどうも鈍かったように私は思う。患者の受入等を結果的にはされているが、他の病院が頑張っているけれど、県立病院の動きが遅かったというように思う。そういったところから、これから非常に柔軟な体制と書いているが、よりフレキシブルな体制をとっていくような方針を目指していただきたいと思う。
- ( 委 員 ) 委員からご意見をいただいたが、県立病院も新型コロナウイルスの診療等に対して少し出遅れたのではないかという意見があった。事務局いかがか。
- ( 事務局 ) そういったことを踏まえて、新型コロナウイルスに関係なく、県立病院としての使命をしっかりと果たせるように体制等についても柔軟性をもてるように、検討したいと思っている。ご指摘いただいた内容についても反映をしたいと思う。
- ( 委 員 ) 他にご意見はあるか。
- ( 委 員 ) 経営状況のところで、いくつか指標を挙げていただいているが、重要な平均在院日数の年次変化も示されている。平均在院日数はしっかりと示していただかないといけないと思う。資料では令和2年度の平均在院日数が14.5日となっている。その前年度、令和元年度の平均在院日数はどのくらいであったのか。
- ( 事務局 ) 少し遡って申し上げる。総合病院の数値であるが、平成28年度が13.9日、29年度が14.4日、30年度が14.5日、令和元年度が14.5日、2年度も14.5日という状況である。
- ( 委 員 ) 平均在院日数はあまり変わっていないということによろしいか。
- ( 事務局 ) 大きくは変化していない状況である。
- ( 委 員 ) 平均在院日数を短くするのは、急性期の病院であると、これをしなければ単価を上げることもできないので、総合病院であれば、これを11日や12日といったもっと下げるべきだといったことをきっちり書き込むようにされた方がよいと思う。
- ( 委 員 ) DPCのことからも、無理にすることはないが、平均在院日数を短くする方が、看護体制、医療体制を充実して、平均在院日数を短くして単価を上げることが経営に望ましいのではないかというご意見であった。他に何かご意見はあるか。
- ( 委 員 ) 4点話したい。次期中期計画策定に対してという点から論点整理をいただいて

いるが、1点目として、3病院の医療提供について、県の保健医療計画も中間評価と次期に向けた準備がロジックモデル等を使いながら行われている。そういった県立病院として5疾病5事業プラス在宅医療や認知症やアレルギー疾患、リハビリといった事業との関連というところは、県立病院であるので、計画に入れていただきたい。そして、5疾病5事業、その他の事業についても、専門的な看護の提供のために専門看護師や認定看護師の養成をしっかりと県立病院でされている。その方たちについても人材活用やチーム医療において役割を發揮されていると思うので、それらの取組が反映されるような計画としてほしい。2点目は、総合病院と小児保健医療センターの統合に向けて体制づくりや人材育成という部分について、子どもから大人に至るまでしっかりと対応ができる人材育成は一気にできるものではないので、早くから準備をしていただきたい。3点目は、先ほども医師の働き方改革という話はあったが、2024年はひとつの節目の年になる。働き方改革については、他職種との業務分担やタスクシフト、シェアといった通知がよく下りてきているような状況である。そういった他の職種との業務分担等、県立病院としてどのようにされていくのかということも大きな取組だと思うので、ぜひよろしくお願ひしたい。4点目は、周産期医療についてである。県では、県の方針として周産期医療については、医師の働き方改革を踏まえて、産科医師が110名~120名というような状況になっており、確保が難しくなっているため、4ブロック化が進められている状況である。医師の不足、また、助産師は県内に565名ほどしかいない。そういったところに早く手を打っていかないと確保が本当に難しい状況である。その周産期医療についてどのようにされていくのか、県の4ブロック化の方針に合わせて、少し聞いていて疑問を持ったため、その点も計画の中でどのようにされているのか聞かせていただきたい。

( 委 員 ) 周産期医療や人材育成のことにに関して、B S Cの中で、ある程度取組や今後の課題についてご報告いただき、委員の皆様から評価をいただいたところではあるが、事務局として付け加えることがあればお願ひしたい。また、この湖南医療圏には、N I C Uもないということから、周産期医療にも取り組んでいくというような方向かと思うが、何か補足説明があればお願ひしたい。

( 事務局 ) 今回は論点整理ということで、まだまだ検討が不十分な点もある。ただ、今年度の計画の策定にあたり、ご指摘いただいた点というのは、非常に大事な視点であり、しっかり考えていきたい。保健医療計画との整合ということで、今回からロジックモデルを参考にさせていただき、目標管理等の考え方を考えていこうと思っている。また、5疾病5事業との関連や新型コロナウイルス感染症を含め、県の方としっかり相談しながら県立病院として取り組んでいきたいと思っている。そのあたりの具体の書き込みはこれから考えていきたい。ま

た、専門看護師や認定看護師の活用ということでも一定それぞれ取り組んでいくことがあるので、そういったことを今後さらに充実化を図るような形で検討していきたいと思う。勤務体制や人材育成についても重要だと思っている。これらの検討については、まだまだ不十分な点があり、来年度から重点的に進めていきたいと思う。7年1月に2つの病院が実質的にしっかり機能するような形で、統合プラン等を検討していきたいと思う。そういった中で、体制、人員の充実、育成の充実といったところにしっかり取り組んでいきたい。働き方改革についても、タスクシェアやタスクシフトのあたりをどう進めるのかということも、もう少し詰めていきたいと思っている。周産期医療については、医師や助産師の確保が非常に大きな課題であると思っている。なかなかこちらの思いどおりには進められないところではあるが、県民ニーズにもお応えできるように、しっかり検討はしていきたい。

( 委 員 ) 他の委員、何かあるか。

( 委 員 ) 先ほど病院の経営の話がされていたが、ずっと赤字状態が続いている中で、県の総合病院として、周産期や精神疾患等いろいろな疾患の方を受け入れていくということだが、本当に大丈夫なのか。新たな枠を設けていくことは本当に大丈夫なのかという思いで聞いていた。がんの県の拠点病院となっているというのも、いろいろなことを総合病院として受け入れていくことでがんのカラーが薄れていくということになり、新規のがんの患者さんが県立総合病院に流れていくという流れがなくなるのではないかと思う。総合病院としての役割と各疾患の専門家で患者のニーズに合ったものにしていくという点の折り合いが必要だと感じる。黒字であればいけるかもしれないが、人材をこれから確保して、たくさんの疾患について県立総合病院としてやっていくというのは、本当に大丈夫なのかという思いで聞いていた。

( 委 員 ) 成人病センターのときから県立総合病院は県のがんの拠点病院であるので、がんに重点を置いてほしいということである。いろいろなことに手を広げることで、がん診療をはじめ、目標とすべき基本的な最もやらなければならないことが薄れてしまうのではないかというようなご心配かと思うが、事務局はいかがか。がんの方も十分にやりながら他の救急等に広げていくということだろうか。

( 事務局 ) 都道府県がん診療連携拠点病院としての機能をしっかり計画にも位置付け、今でもいろいろな取組を行っているが、県立病院にしかできない医療の充実を図っていきたいと思っている。今後計画の中では、ここは我々としても強みの部分であると考えているため、しっかり内容も含めて事業を推進していきたい。総合化を図っていくには、まだ様々な検討の必要があり、課題も含めて今後詰めていくことになる。その中のひとつの要素に経営の観点もある。人材の

話や施設の整備といったことが伴うというものもある。あるいは、いわゆる不採算という部分にどう対処していくかということもある。周産期や精神疾患への対応というのは、県の繰出しの項目にはあるので、全県的にそういったことを計画的にどう進めるのかという部分にも関連するので、県とも相談をしながら進めていきたい。

- ( 委 員 ) 他に何かご意見があればお願いしたい。
- ( 委 員 ) いろいろな重点的な取組ということで非常に考えられているが、これをぜひ金額に換算していただきたい。こういう事業をするのであればこういう投資があるということや、こういう収益が上がるといったようなことを金額に落とし込んだ資料を作成することで必要な財源が出てくると思う。そういった詳細な資料を作成することで財源を比較的容易に確保できると思う。取組自体はすばらしいと思うので、そういった説得材料となる資料を作成いただくとよいと思う。また、経営の指標で経営状況を書かれているが、先ほどのお話を聞くと、5年で資金が半減しているとのことであった。あと30億あまりしかないというようなことも聞き、設備を伴う事業であるため、かなりのお金が動くと思う。資金の状況がどのように中期計画に合っているのかということも、いろいろな施策を細かく落とし込むことで、資金残高、バランスシートの情報も詳細に入れていただき、将来の資金確保の施策も入れた中期計画にしていただく方がいろいろな方の理解も進むのではないかと感じた。
- ( 委 員 ) いろいろな事業計画に関して、もう少し資金計画に落とし込んで、事業予算等、見込み額を書いて説明することが大事なのではないか。そうすることで、一般会計からの繰入金も増えるのではないかとということであった。事務局どうか。
- ( 事務局 ) 説明が漏れていたが、中期計画の中では計画期間中の収支の見通しについても併せて記載することになっている。その作業はさせていただく。ベースとなるのは令和4年度の予算である。作業についてはこれから本格化をしていく。大体2月には予算案がまとまるので、それをベースに置きながら、新しくお示したようなことを要素として織り込み、最終4年間の収支がどう推移するかということも併せてお示ししていく。ほかの分野については、どこまでやるかで随分収支の数字が変わってくる。そこは、どこまで落とし込めるかということだと思うが、ご指摘があった資金の状況が、4年後にどうなっているかということも気にしているところであり、資金ベースでの状況についても、一定お示ししていきたいと思う。
- ( 委 員 ) これから10月、2月と来年度の第五次中期計画に向けて、委員がおっしゃったような資金計画を含めて落とし込んでいくことになる。またその時にいろいろご意見賜りたいと思う。他に何か意見があればお願いしたい。
- ( 委 員 ) 先ほどのご意見があったように、子どもや妊婦さんの数は明らかに減ることが



分かっているので、いかにそちらの分野のことを考えていただけるのかということに心配している。医療が高度になると、緊急性のあるお子さんもたくさん出てくるかと思うので、そういうときに子どもに対する医療はもちろんだが、保護者に対するフォローをチームで治療が迅速に進められて地域に帰っていけるようなことを計画されているといいなと思い、聞かせていただいた。

(委員) 事務局から補足や意見はあるか。

(事務局) チーム医療のこと等についても記載はしていないが、取組を進めている。ご意見を参考にさせていただきたいと思う。

#### 説明 第五次県立病院中期計画について

・目標管理手法の検討について

(事務局から説明)

#### 質疑

(委員) BSCに関しては、これまで各委員の皆様からも少しわかりにくいのではないかと、3病院ともに少し手法が異なっているのではないかという意見が出されたことにおいて、今回第五次中期計画においては、ロジックモデルといったものに変更、改善していこうということだと思う。今ご説明いただいたことと表を合わせて見るとBSCよりもわかりやすいと感じる。皆さんの意見はどうか。

(委員) 私も県の保健医療計画の中間見直しと今後の策定に向けてという会議でも、このロジックモデルの説明を受けている。そこではかなり詳細な指標が示されていた。一丸となって職員が取り組めるような、職員で共有できるようなわかりやすい指標でぜひお願いしたい。大変な作業だと思うがよろしくお願したい。

(委員) 他の委員いかがか。

(委員) これまでBSCを使ってきて、新たにロジックモデルに変更するということが、確かに今ロジックモデルは流行で、どこでもロジックモデルになっている。その流れに乗るのはよいと思う。しかし、これまでのBSCの問題点について、参考資料に記載があるが、これまで第四次中期計画の中でこういった問題については、もっと前から指摘を受けていたと思う。その段階で、それについてBSCを使ってどう変えようかということは当然されたと思うが、この問題を解決しておかなければ、ロジックモデルを使っても同じ問題が出てきて、結局わからないというようになってしまうと思う。BSCについても利用している施設はかなり多く、病院経営の中では割とポピュラーなものなので、それなりに意味合いもあり、しっかりと利用できれば効果を上げるものである。ぜひ

ひとも、ロジックモデルに変えても、出てきた問題をそのままにせず、どうしたらよいかという点できちんとその都度修正をしていくということが重要ではないかと考える。

- ( 委 員 ) 他に意見はあるか。
- ( 委 員 ) がん患者委員の研修会ではロジックモデルを使って学んでおり、最近全ての医療計画はロジックモデルに変更になっていっているということは感じている。やはりわかりやすく、最終目的アウトカムをしっかりと明記して、それに向かって遡っていったり、進んでいったりするの、わかりやすくてよいと思う。先ほど委員がおっしゃったように、今までの問題がそのままにならないように整理し、ロジックモデルにのせていくという作業がとても大事だと感じた。
- ( 委 員 ) 他に意見がある委員はいらっしゃるか。
- ( 委 員 ) こういった目標管理のツールはいくつかあると思うが、これを作ることが目的になってしまうと、意味のないものだと思う。従来目標管理はそういったことになっているのかと推測する。B S Cのやり方がよくないということではないと思うが、使い込めていないのかと思う。それを是正して、より簡易なものにしていくという方向性はよいことかと思う。ただ、ツールを変えれば全てが解決するというのではなく、何のためにこれを行い、これがどういう風に生きていくのかといったところである。トップからのメッセージや職員の方々の隅々までの浸透にも力を入れて、これが有効になるようにしていただければと思う。
- ( 委 員 ) 他の委員はいかがか。
- ( 委 員 ) 委員の皆さんがおっしゃったことがそのとおりであると思う。
- ( 委 員 ) B S Cが悪かったというわけではないが、少々問題がなかったということではない。ロジックモデルにして、さらに目標管理を高めていただき、実績を挙げていただきたい。事務局から補足はあるか。
- ( 事務局 ) 私もB S Cを見る中で、なかなか職員が一つの方向性に向かって取り組んでいくということが難しいと感じた。人事評価の仕組みもあり、それぞれの職員の成果が組織の目標とどう繋がっているかというところでのリンケージが少し不十分だと感じた。よりシンプルにすることで、それぞれが意識をしやすくする。それに向けて自分は何ができるか、どういう貢献ができるかということの自身への落とし込みもしやすい形でやっていきたいと思う。ただ、委員がおっしゃったようにどういう目標にするかということと、成果を十分にフィードバックするというあたりが重要だと思うので、そこについては、進め方も含めてしっかり考えて、またこの場でもご意見をいただきたいと思う。
- ( 委 員 ) 委員の皆様から追加のご意見やご質問はあるか。
- ( 委 員 ) 少し思ったことをお話させていただきたい。ホームページを見せていただいた。

ホームページは病院の顔だと思う。今新型コロナウイルスでなかなか出かけることができなくて、ホームページを見る機会が多くあると思う。がんと診断されたとき、がんかなと思ったとき、また他の病気、小児や精神でもホームページを見ると思う。県立総合病院のホームページを見させていただいた。その時に、令和2年度病院指標がアップされており、呼吸器外科であれば患者数は何人だとか、ある程度患者数の詳細は載っているが、一方で、肺がんセンターや乳腺センターというカテゴリーをクリックして見ていると、古いデータしか載っていない現状がある。新しいデータを更新するということは、病院を評価するうえで、患者さんが病院を決めるのにとっても大事だと思うので、その点を更新してほしいと思う。また、診療体制というところを見ていると、緩和ケアや放射線治療があり、最後の実績というカテゴリーに、実績が挙がっていない。今までの実績はどうなのかというのは患者さんが見ると思う。そういう病院の顔としてのホームページの更新は、最新で正確なデータを挙げていただくということが、患者数の増加につながると思う。しっかり見られていないことから間違っているところもあるかもしれないが、もう一度ホームページを確認して更新していただきたい。

- ( 委 員 ) ホームページは非常に大事なことである。データも大事だが、県民の皆様がぜひ県立総合病院ないしは精神、小児へ行きたいと思うホームページを出していただくことが大事だと思う。ちなみに、ホームページが業者に頼まれているのか。それとも病院でされているのか。
- ( 事務局 ) 病院の職員で対応している。今後リアルタイムにしっかり情報をお届けできるように努めていきたい。
- ( 委 員 ) 業者がやると魅力的なホームページになるという話も聞く。また、ご検討いただきたい。他の病院のホームページは業者に頼んでいらっしゃるのか。
- ( 委 員 ) 以前は業者に頼んでいたが、今は院内で更新している。
- ( 委 員 ) 改善する点があれば、ホームページの更新をいただき、魅力あるホームページにさせていただきようをお願いしたい。オブザーバーから何か意見はあるか。
- (オブザーバー) 経営協議会を拝見させていただき、今後の計画作成支援に反映させていただきたいと思った。
- ( 委 員 ) 様々な貴重なご意見をたくさんいただき御礼申し上げます。それでは、これをもって議事を終了する。